



建築人

9

2018



大阪ホンママもん

建築人

9
2018

目次

2	大阪ホンマもん
4	インフォメーション・事業案内
6	動静レポート
7	Topics
8	ひろば『今、自治体のアツイところ！』大阪府 山下久佳 転換期を迎えた大阪の都市づくり ―「人」中心の都市構造へ―
10	Gallery 建築作品紹介 三浦工業本社ショールーム棟 設計 竹中工務店 施工 竹中工務店 floating box 設計 マニエラ建築設計事務所 施工 三幸建設 中庭を囲む家 設計 H T Aデザイン事務所 施工 岡本工務店 岸和田の家 設計監理 大西憲司設計工房 施工 匠家具工芸
15	記憶の建築 松隈 洋 丸栄百貨店 一九五三・五六年 戦後を見守った老舗百貨店
16	建築の射程 平松克啓 淡路島で建築を考える
18	理事会報告 建築相談室から 編集後記

建築士会における情報発信

建築情報部門長 飯田 英二



建築情報部門は、今ご覧になられていす紙媒体での会報誌『建築人』の発行と、HPやメールマガジンを中心とするWEB媒体による情報サービスという二本の柱で情報提供を行っています。

会員の皆さまの相互の交流を図るために士会の活動状況を報告し、最新の情報を提供しながら建築の専門家としての技術研鑽を行うのは当然のことではありますが、一方公益社団法人として、建築士以外の一般市民の方々への情報発信・サービスも欠かせません。情報部門としてはその性質上、出来るだけ建築士、一般市民の方の両方に興味をもっていただけるような活動を提案していきたいと考えております。

『建築人』では今年一年目を迎えます建築人賞に、新しく横浜国立大学大学院Y-G S A教授の乾久美子先生を審査委員長としてお迎えすることになりました。今後も紙媒体としての充実を図りながら、皆さまに喜んでいただけるよう新しい誌面の在り方を模索していくと共に、わかりやすく使いやすいWEBによるサービスと併せて、時代のニーズにあわせた価値ある情報をスピード感をもってお届けしていきます。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

レトロビルにも様々な個性があるが、大阪市西区立売堀にあるシンブルで愛らしい「立売堀ビルディング」を取り上げたい。

建物は、阿波座で製粉業を営んでいた麻殖生徳次郎（まいおとくじろう）氏が、大正の末期に拡張された四つ橋筋沿道のオフィステナント需要を見込んでこの地に計画された。建物は鉄筋コンクリート造の地階一階・地上四階建てで、鴻池組による設計施工により昭和二年（一九二七年）に竣工した。当初は南側に木造三階建ての立派な洋館が建っていたが、大阪大空襲の戦火により残念ながら焼失した。しかしながら昭和三十六年（一九六一年）に新館を再建している。

旧館のファザードは基壇部を安定したマスとして設け、上部は縦を基調にシンブルながらガラス開口部を沢山取り入れ、頂部は水平ラインを強調した庇を帽子の如く被せている。華美な装飾は一切なく、清く好感の持てる佇まいといえる。内部はほぼオリジナルの状態を保ちながら維持されており、特にテナント貸室部分の高い天井が好評で、長期入居されているテナントが多いのも頷ける。

昭和初期の建物にはメンテナンスが欠かせない。適切な改修設計に高岡伸一氏が関わっており、設備やエンタランス改修は当然のこと、建物の歴史紹介パネルを設置し内外に魅力を発信し、「生きた建築」とすべく努力されており、理解あるオーナーでなければ実現できない。是非、大阪の活性化に繋げて頂きたい。

HP [省エネ講習会](#) [検索](#)

※WEB申込は、9月中旬頃から開始されますので、お申込はそれ以降とさせていただきます。

※詳細は今月号同封の案内チラシをご覧ください。

「空間を語る」建築家講演会

9/7、9/14、9/20 CPD各2単位

椎名英三氏、竹山聖氏、大西麻貴氏の3人の建築家が交互に空間魅力についての「語り手」と「聞き手」になってトークリレー方式で解説することにより、空間に込められた思いへの理解を深め合う企画です。

秋の夜長に雑事を忘れてともに建築の夢と空間を語り合しましょう。

日程 9月7日(金)、14日(金)、20日(木)

開場 18:00 講演 18:30~20:40

終了後、懇親会

会場 大阪府立男女共同参画・青年センター(ドーンセンター)

大阪市中央区大手前1-3-49

出演 9/7 椎名英三 聞き手:竹山 聖

9/14 竹山 聖 聞き手:大西麻貴

9/20 大西麻貴 聞き手:椎名英三

モデレーター 山口千乃

参加費 学生・入会3年以内の会員1,000円(3回通し3,000円)

会員・後援団体会員2,000円

(3回通し5,000円)

一般3,000円(3回通し7,000円)

懇親会参加費 4,000円

越井木材工業株式会社 工場見学会 「不燃・防火・熱処理木材を学ぶ」

9/10 CPD2単位

建築基準法改正により、木材利用の合理化が進展する中、高い木材処理技術をお持ちの越井木材工業株式会社の工場見学会を開催します。不燃・防火木材、熱処理木材、その他建材等についてご説明の後、工場内を案内いただき、大阪市内で広範な種類の処理木材を一気に理解することが可能です。

日時 9月10日(月) 15:30~17:00

懇親会17:30~

会場 越井木材工業(株)

(大阪市住之江区平林北1-2-158)

定員 30名(申込先着順)

参加費 会員1,000円 会員外1,500円

懇親会費 4,000円程度

「北区界隈のクラブ建築」を巡る

9/28 CPD2単位

北区の町を歩くことを通じてみえてくる地域の隠れた魅力を発揮している建築物について、さまざまな視点から見学をしたいと思います。

最初の大阪倶楽部は安井武雄の代表作で「南欧風様式に東洋風様式を随所に配した」国の登録有形文化財の指定と大阪市の指定景観形成物及び大阪市指定文化財等の指定を受けています。

その後クラブ関西と中央電気倶楽部に足を延ばします。

日時 9月28日(金) 15:00~18:00

集合場所 「地下鉄御堂筋線 淀屋橋駅」下車
10番出口地下「淀屋橋odona」B1階前

定員 30名(申込先着順)

参加費 会員1,000円 一般1,500円

新入会員(2017年度以降入会)500円

懇親会 参加費約5,000円(堂島界隈)

マンション大規模修繕における建築士の役割 大規模修繕工事の流れと課題・新築時の重大な建物欠陥と大規模修繕工事

10/11、11/7 CPD各日2単位(予定)

マンションの大規模修繕工事の流れと課題(資金不足や新築時の瑕疵修繕など)、新築時の重大な建物欠陥と大規模修繕工事(タイル浮きの危険除去など)について、2日間の公開講座を開催します。

日時

第1部 10月11日(木) 18:00~20:30

①町中の小規模マンションの大規模修繕

②大型団地の大規模修繕

③管理会社主導から引継いだ大規模修繕の苦悩

第2部 11月7日(水) 18:00~20:30

①大規模修繕工事の役割と位置付

②新築時の重大な欠陥修復を含む大規模修繕

会場 大阪府建築士会会議室

募集 各日50名(申込先着順)

参加費 各日会員1,000円 会員外1,500円

パワポで魅せる! ビジュアルプレゼン講座

10/13 CPD2単位(予定)

マイクロソフトMVPによるプレゼンセミナーです。講師は、マイクロソフトが選ぶ年間MVPのパワーポイント部門で2011年から現在まで連続受賞されている河合浩之先生をお招きします。

日程 10月13日(土) 15:00~17:00

会場 大阪建築健康会館 大ホール

定員 120名

参加費 会員5,000円 会員外7,000円

「これを見ずして村野藤吾を語るなかれ」

11/10 CPD3単位(予定)

大阪市南地域会では、村野藤吾の処女作と最晩年の作品が現存する南大阪教会と、現在は企業のショールーム・カフェバーとして使用されている旧村野・森事務所の見学会を開催します。京都工芸繊維大学助教 笠原一人先生が当時の図面を基に解説していただきます。

日時 11月10日(土) 14:00~17:00(予定)

懇親会 17:15~19:15(予定)

会場 南大阪教会、旧村野・森事務所

講師 京都工芸繊維大学助教 笠原一人

定員 30名(申込先着順)

参加費 会員3,000円 会員外3,500円

学生1,500円

※終了後に懇親会を予定(旧村野・森事務所にて別途4,000円程度)

第37回 近畿建築祭 滋賀大会 歴史、山、湖

日本の仏教の母なる山 比叡山延暦寺を巡る。
11/17 CPD3単位

近畿の建築士会会員が集う第37回近畿建築祭「滋賀大会」を、日本仏教の母なる山と云われる比叡山延暦寺で開催いたします。

現在、国宝の根本中堂及び重要文化財の回廊の大改修工事が施工中で、その現場見学も含め各エリアを巡拝できます。

「世界文化遺産」である比叡山延暦寺において数々の国宝、重要文化財と直にふれあい日本の歴史と伝統を感じて頂くとともに山と湖が織りなすその絶景を、この機会には是非ご覧ください。

日時 11月17日(土) 10:30~16:00

会場 延暦寺会館大ホール

参加費 4,000円(昼食、お土産付)

阿弥陀堂物故者法要には参加費とは別に一法名につき5,000円が必要となります。

詳細は本会HPをご覧ください。

Administration

行政からのお知らせ

豊中市木造住宅等除却費補助制度

豊中市では、庄内・豊南町地区の木造住宅等の除却費の補助を実施しています。

対象となる建物 昭和56年5月31日以前に建築された木造の建築物
制度運用期間(予定)
平成30年4月2日(月)~平成31年3月29日(金)

その他、補助率、補助限度額、対象となる区域、申し込みの詳細については、豊中市のホームページで「除却費補助」と検索してください。

Others

その他のお知らせ

第2回関西住宅・ビル・施設Week

9/26~28

製品・技術の導入、新製品の発掘、設計施工の相談など、商談のための住宅・ビル・施設の総合展です。

主催 リードエグジビジョンジャパン(株)

会期 9月26日(水)~28日(金)

会場 インテックス大阪

詳細は、以下のホームページをご覧ください。

<http://www.japanbuild-kansai.jp>

としまアンダーハイウェイ・デザインコンペ

東京都豊島区において、首都高速道路の周辺と下部の空間を活用し、既存の都市のインフラ・建築ストックの活用やそれによるナイトエコノミーの活性化など、今日的課題となっている視点からの建築士の技術力を活かした斬新なデザイン提案により、景観を改善するアイデアを募ります。

賞 最優秀賞(賞金15万円 1点)

優秀賞(賞金7万円 1点)、佳作等数点

登録期間 8月20日(月)~9月18日(火)

提出期間 10月9日(火)~10月26日(金)必着
詳細は以下のHPをご覧ください。

<https://tokyokenchikushikai.or.jp/toshima>

問合せ (一社)東京建築士会事務局

Tel.03-3527-3100

つよい木造住宅のつくり方II

10/27

木造軸組の意外に知られていないルールを解説しながら、「設計士のための伏図の書き方、軸組の考え方」の講座を行います。伏図の作成の実習を通じて、柱と梁と間取りの関係を考えて頂くと同時に、軸組と面材の違いを知って頂けたらと考えています。

主催 木造トラス研究所・(株)合掌

日時 10月27日(土) 13:15~16:45(予定)

講師 風明宏(株式会社和木材商会プレカット課長)

会場 大阪材木仲買会館

大阪市西区南堀江4-18-10

定員 24名

参加費 4,000円/日(資料代含)

希望者のみ終了後実費にて懇親会を実施

問合せ 申込

(株)合掌 E-mail truss@hera.eonet.ne.jp

又はFax.0742-36-2929まで

公益財団法人建築技術教育普及センター 平成30年度インテリアプランナー 試験のお知らせ

「インテリアプランナー」は、高品質で魅力的なインテリア空間をトータルに実現できる設計能力を持った資格者に与えられる称号であり、インテリア設計等に関し専門的・高度または独自の知識・技能を有する者として、その能力を審査・証明されたプロフェッショナルです。

平成28年度の制度変更により、建築士(一級・二級・木造建築士)は学科試験が免除され、設計製図試験に合格するだけで<インテリアプランナー>の称号が付与されます。建築士でインテリア設計等に関する業務も行っている方、スキルアップ・ステップアップをお考えの方は、この際にぜひ挑戦してみてください。

○設計製図試験日:11月18日(日)

○受験申込受付(後期):9月3日(月)~28日(金)

<http://www.jaiec.or.jp/shiken/ip/ip-shiken-annai-h30/index.html>

○平成30年度インテリアプランナー試験

設計製図試験の設計課題

<http://www.jaiec.or.jp/shiken/ip/ip-seizukadai.html>

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

既存建築物耐震診断等の評価・評定

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。

不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。

スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞ活用ください。

(業務内容)

耐震診断報告書の審査、評価
耐震補強計画書の審査、評価等

(対象建築物)

公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)

申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。詳細は、本会ホームページをご覧ください。

第21回「日・韓・中建築士協議会」大阪会議 オープン・セッション2018 10/19 CPD2単位

3カ国の研究や発表プログラムを予定していますが、その一部をオープン・セッションとして企画しました。

主催 (公社)日本建築士会連合会

共催 (公社)大阪府建築士会

テーマ 各国の超高層設計

日時 10月19日(金) 9:30~11:30

会場 ホテルイビススタイルズ大阪/オペラ
大阪市中央区宗右衛門町2-13

参加費 無料(要事前登録、定員なり次第締切)
登録(web申込限定)

http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2018/2018-08-27.html

問合せ (公社)日本建築士会連合会

Tel.03-3456-2061

http://www.kenchikushikai.or.jp

建築士法にもとづく建築技術講習会 省エネ適判の実務を学ぶ講習会 「モデル建物法入力シート作成～機械設備編～」と「申請・検査のポイント」 9/12 CPD3単位

本講習会はモデル建物法を用いて、空調設備・その他の設備全般(機械設備)のデータ入力手順を、事例をもとに短時間で解説する初心者

向け講習です。さらに省エネ適判の審査機関より、申請実務における注意点について説明いたします。

(2月20日に実施済みの外皮編を受講してなくても、今回の機械設備編のみの受講が可能です。)

日時 9月12日(水) 13:55~17:10

会場 大阪府建築士会 会議室

定員 60名(定員に達し次第締切)

受講料 建築士会会員6,000円
大阪建築防災センター「OKBCメール便りの会」会員6,000円
後援団体会員7,000円
一般8,000円

※(一財)建築環境・省エネルギー機構指定テキスト代を含みます。

平成30年度監理技術者講習 (監理技術者以外の方も受講可能) 9/21、11/27、1/18、2/6、3/6 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講下さい。

日程 9/21(金)、11/27(火)、1/18(金)、
2/6(水)、3/6(水)

時間 8:55~17:00

会場 大阪府建築士会 会議室

定員 各回30名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込み9,500円
郵送申込み10,000円

申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。

http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html

大阪府知事指定講習 「建設工事の安全・健康確保講習会」 9/25、10/24、11/19、12/11 CPD各回3単位

本講習会は、設計、施工等の各段階における安全・健康確保の措置や、建築労働者の意識向上を図る取組み方法についての講習を行い、労働災害防止に関する建築技術者の安全と健康を確保することを目的としており、テーマを変えて4回実施します。また、本講習受講により取得された現場管理技術者のCPD単位は、大阪府公共建築室が発注の条件付一般競争入札(実績評価型)において、H31年度から評価点を取得できます。

日程・テーマ

①9/25(火) 建設災害の状況、安全管理の実施事項、労働災害の責任など

②10/24(水) 労働安全衛生法、通路・足場の安全管理・火気危険物の扱いなど

③11/19(月) 各種届出書類、土留・型枠支保工・鉄骨工事の安全対策など

④12/11(火) 仮設計画のポイント、職業病予防、解体工事の安全対策など

時間 13:30~17:05

会場 大阪府建築健康会館6階ホール

講師 建設業労働災害防止協会及び練奥村組、練大林組、大日本土木(株)、練竹中工務店の安全管理担当者

定員 各回100名(定員に達し次第締切)

受講料 建築士会会員3,000円/回
後援団体会員4,000円/回
一般5,000円/回
(4回通し受講の割引あり)

既存住宅状況調査技術者講習 新規講習10/11 CPD5単位

平成28年6月に宅建物取引業法の一部改正され、平成30年4月から既存住宅の売買時に既存住宅状況調査が義務付けられました。調査の実施は、登録機関の講習を修了した建築士のみ認められ、新たな建築士業務となります。

日時 10月11日(木) 10:00~17:50

会場 大阪府建築健康会館6階ホール

定員 100名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込21,060円
郵送申込21,600円

申込 日本建築士会連合会HPよりお申込みください。

http://www.kenchikushikai.or.jp/

平成30年度建築士定期講習 10/22、11/28、12/18、1/30、2/21、3/18、3/29 CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成27年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

日程・会場・定員

※10/22(月) 大阪国際交流センター 200名
11/28(水) 大阪府建築健康会館 90名

※12/18(火) 大阪府建築健康会館 90名
1/30(水) 大阪府建築健康会館 90名

※2/21(木) 大阪国際会議場 300名
3/18(月) 大阪国際交流センター 200名

3/29(金) 大阪府建築健康会館 90名
時間 9:25~17:00(各講習日共)

受講料 12,960円(消費税含。事前振込)

申込書配布場所

大阪府建築士会及び大阪府建築士事務所協会事務局又は、建築技術教育普及センターHPからダウンロード(平成27年度受講者には、直接申込書を郵送しています。)

申込方法

上記事務局へ持参又は簡易書留による郵送。

受付場所(送付場所)

※印の日程 大阪府建築士会事務局
※印以外の日程 大阪府建築士事務所協会事務局

建築技術教育普及センターHPからWEB申込みも可能です。

https://jaeictkosyu.jp/jaeictaikosyu/

注)各回定員に達し次第、受付を終了します。

大阪府知事指定講習 平成30年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法》 9/4・12/5 CPD5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。(本講習は、国土交通大臣登録講習ではありません。)

日程 ①9月4日(火) ②12月5日(水)

時間 10:00~15:50

会場 大阪府建築健康会館6階ホール

最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車

定員 各100名(定員になり次第締切)

受講料 会員5,000円 会員外9,000円

テキスト代 7,200円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

大阪府知事指定講習 平成30年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算法》 1/29 CPD6単位

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価するのに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法で、伝統構法の木造建築物の耐震診断等に用いられます。

日時 1月29日(火) 9:30~16:00

会場 大阪府建築健康会館6階ホール

最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車

定員 120名(定員になり次第締切)

受講料 会員6,000円 会員外8,000円

テキスト代 4,000円(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)

建築士会会員受講料全額補助 大阪府住宅省エネルギー設計者講習会 10/10、10/30、11/13、11/27、12/7、12/21、1/18、1/24 CPD各6単位(予定)

国土交通省が新省エネ基準を2020年までにすべての新築住宅に適合を義務付けることに先がけて、設計者に木造住宅の省エネ技術の習得を促すべく講習会です。

■詳細計算ルート

日程 ①10月10日(水) ②10月30日(火)
③11月13日(火) ④11月27日(火)

時間 9:45~16:45(各回共)

会場 大阪府建築健康会館6階ホール(各回共)
大阪市中央区和泉町2-1-11

定員 120名(各回共。申込先着順)

受講料 会員 本会が全額補助(各回共)
会員外1,000円(各回共。テキスト代含む)

■簡易評価法(仕様ルート・簡易計算ルート)

日程 ①12月7日(金) ②12月21日(金)
③1月18日(金) ④1月24日(木)

時間 9:40~16:10(各回共)

会場 大阪府建築健康会館6階ホール(各回共)
大阪市中央区和泉町2-1-11

定員 120名(各回共。申込先着順)

受講料 会員 本会が全額補助(各回共)
会員外1,000円(各回共。テキスト代含む)

※申込方法 専用のWEBからお申込してください。

動静レポート

会長動静

- 7/26・27 正副会長会議・理事会(連合会)
- 7/28 全国女性委員長会議(連合会)
- 7/29 全国女性建築士連絡協議会(連合会)
- 8/ 6 岸和田市長、泉佐野市長面談
- 8/ 7・21 大阪府収用委員会
- 8/ 8 忠岡町長、田尻町長面談
- 8/10 泉大津市長面談
- 8/16 阪南市長面談
- 8/22 貝塚市長、泉南市長、熊取町長面談
- 8/24 中央建築士審査会

* 連合会：(公社) 日本建築士会連合会



(左) 永野耕平
岸和田市長



(左) 千代松大耕
泉佐野市長



(右) 和田吉衛
忠岡町長



(左) 栗山美政
田尻町長



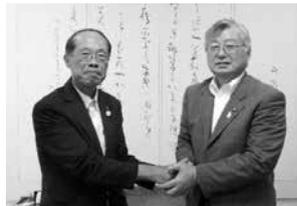
(右) 南出賢一
泉大津市長



(右) 水野謙二
阪南市長



右から、木村理事、藤原龍男貝塚市長、岡本会長、藤江委員、杉原専務理事



(右) 竹中勇人
泉南市長



(右) 藤原敏司
熊取町長

社会貢献部門

空き家対策の国庫補助事業に 本会の応募事業が採択

空き家対策の共通課題解決を図る取組み等を支援し、その成果を全国へ展開させる国土交通省の「空き家対策の担い手強化・連携モデル事業」に、本会と泉佐野市が連携して実施する「泉佐野市特定空き家対策事業」を応募し、事業に必要な約400万円の国庫補助を受けることが8月1日に採択されました。事業内容は、泉佐野市が本年度から実施する、空き家対策の新制度の実施マニュアルを作成するもので、一定の条件を満たす特定空家について、行政代執行を行わずに土地・建物を市が寄付受けを行い、市が建物の除却と地域の特性や住環境を踏まえた跡地の利活用又は売却を行います。マニュアル作成には、今年度寄付受けを予定している2戸の空き家をモデルケースとして、建築士、弁護士、司法書士、土地家屋調査士、宅建士などから構成する専門家会議を立上げ、課題整理や解決策を検討し各専門分野のノウハウを反映させます。事業成果は、来年2月に東京で開催の成果報告会で発表し、国土交通省を通じて全国に発信されます。

表彰部門

大阪まちなみ賞の応募状況

本会が事務局を務める第38回大阪都市景観建築賞(愛称:大阪まちなみ賞)は、7月1日~7月31日の期間に、府民から136件(自薦含)の推薦がありました。今後、10月1日に書類審査、11月5日に現地審査・最終審査を実施し、大阪府知事賞・大阪市長賞・審査員特別賞などの入賞建物を決定する予定です。

事業部門

第14回海外研修旅行

「蒼き国モンゴルⅡ〜ゲル体験」



移動式住居のゲル(パオ)

今年の2月に実施した「悠久のインド〜タジマハールとチャンディガール」に引き続き、国際委員会が企画する9月20日~25日の6日間の海外研修旅行「蒼き国モンゴルⅡ〜ゲル体験」には、14名の参加申し込みがありました。今回はモンゴル西部のホブド地方を訪れ、中心街のサンギーン・ヘレム、ホブド県庁舎、仏教寺院「シャル・ソム」などの建造物を見学します。また、ゲル(パオ)と呼ばれる、伝統的な移動式住居でのキャンプ体験や、ホーミーと呼ばれるモンゴル民謡特有の倍音唱法の鑑賞などの伝統文化に触れたいと考えています。



4WTC ©Tectonic

また現在、来年の2月にニューヨーク研修旅行を企画中で、横文彦氏設計の4WTCやアールデコ建築群の見学をはじめ、MOMAやブロードウェイ等を訪れ、刺激的な文化・芸術を堪能しますのでご期待下さい。

木を知れば建築はますます面白くなる・木の話セミナー「銘木は住空間にハマる」

日程：平成30年7月3日（火） 会場：株式会社岡本銘木店鳥飼支店、大阪銘木市場 参加者：35名

芳村隆史（賛助会員委員会委員）



事業部門賛助会員委員会では、青年委員会、地域委員会大阪市南地域と共催で「木を知れば建築はますます面白くなる・木の話セミナー『銘木は住空間にハマる』」を開催しました。

講師は長年、商いをとおして木を知り尽くした(株)岡本銘木店代表取締役社長の佐藤原二氏にお願いしました。

第1部 木の話セミナーでは木材の基礎知識について「木材の乾燥」、「木材の弱点」、「木材の呼び方」、「国産材」、「針葉樹と広葉樹」、「北米材」、「ロシア・ヨーロッパ材」、「南洋材」、「その他の国の材」、「エンジニアウッド」、「環境保護と木材」の説明がありました。

銘木については司馬遼太郎のエッセイ「話のくずかご」に出てくる“春日の大杉”を通して、かつて大阪船場、横堀一帯が銘木の全国的中心であり、のちに大阪府下の摂津市に移って銘木団地をつくった

経緯や、銘木屋という商売について銘木の目利きほど難しいものはないことを説明頂きました。

第2部 大阪銘木市場見学では（二班に分かれ）競り前の銘木を見せて頂き、それぞれ樹種の特徴・出来方・におい・質感・重さをひとりひとり体感し五感で記憶しました。

そのあと(株)岡本銘木店のショールームを見学しました。ここでは銘木をこれからの建築空間の構成にどう位置づけるかの提案がなされていました。また大阪欄間の伝統を守る為、欄間職人を育成しておられ、大阪欄間の伝統が引き継がれていました。

この木の話セミナーは、木を五感で体感でき、仕事でも木の相談ができる人を見つけることができました。

本会では、このようなスキルアップの為の講習会、見学会、研究会、討論会、体

験学習を行なっています。皆さまの参加をお待ちしています。



「MIRAIZA OSAKA-JO（ミライザ大阪城）」&「豊国神社 秀石庭」見学会に参加して

日程：平成30年7月21日（土） 会場：本会会議室・MIRAIZA OSAKA-JO・豊国神社秀石庭 参加者：39名

長谷川文三（大阪市東地域幹事）



地域委員会大阪市東地域会の企画で行われた、「MIRAIZA OSAKA-JO（ミライザ大阪城）」&「豊国神社 秀石庭」見学会に参加した。

1) 「MIRAIZA OSAKA-JO」建物リノベーションに関わる解説

大和ハウス工業(株)の岩上嘉樹氏、伊藤真二氏により、旧第四師団司令部庁舎（MIRAIZA OSAKA-JO）の耐震改修設計について『外見は変えない・間仕切りをできるだけ無くしたい・壁面を開放的にしたい』等の計画的な要求や耐震改修の構造的な要求、これらについて分かり易くご説明頂いた。その後、7月の猛暑の中、建築士会から大阪城内への移動中に懇親を深め、会話が花が咲いた。

2) 秀石庭見学

本会委員で日本庭園を研究されているARK STUDIOの羽木みどり氏により、

重森三玲氏が庭の設計に当たって考慮したテーマについて、『大阪城の地は石山本願寺があったところ・豊国神社の御祭神が豊臣秀吉であること・商都大阪の発展は尼崎港、堺港を控え、近代文化をもたらした大阪港あつてのこと・神社庭園であること・従来からの伝統的、類型的な庭園ではなく、近代庭園としての新しい発想』これらについて分かり易くレクチャー頂いた。

3) 「MIRAIZA OSAKA-JO」見学

再度、岩上氏、伊藤氏により、現地を見学しながら、枠付き鉄骨プレースの工法等をご説明頂いた。更に当庁舎総工費が、三代目大阪城建造の二倍である逸話も披露して頂いた。

4) 懇親会

懇親会は20名の参加で、屋上テラス・バーベキュー形式で盛大に行われ、講師

と参加者同士の親睦が和気藹々と楽しく行われた。



「MIRAIZA OSAKA-JO」建物リノベーションに関わる解説



秀石庭見学

転換期を迎えた大阪の都市づくり——「人」中心の都市構造へ—— 文 山下 久佳

1. はじめに

「大阪府北部を震源とする地震」、「平成三〇年七月豪雨」により亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、負傷された方々、自宅等が被災された方々にお見舞いを申し上げます。

今回の地震では、府民の安全・安心を守るという行政の原点を再認識するとともに、大阪の都市づくりの課題が未だ多く残っていることを突きつけられました。

ブロック塀の問題では、学校という公施設で尊い命が奪われました。府有施設において緊急点検を行った結果、現行の建築基準法に適合していないブロック塀もあり、安全を確保する取組を早急に進めています。通学路におけるブロック塀等の安全点検、安全確保に向けた取組も、各市町村と連携して進めていきます。

また、今回の地震被害の特徴として、災害救助法の対象とならない「一部損壊」が約四万四千棟と多かったことから、大阪府独自に「大阪版被災住宅無利子融資制度」、「大阪版みなし仮設住宅制度」という二つの制度を創設し、被災者の方々にできるだけ早期に元の生活に戻っていただけるよう取組を進めています。

今回の地震への対応はもろろん、これまで取り組んできた「住宅・建築物の耐震化」のさらなる推進や、「密集市街地对

策」のスピードアップなど、府民の安全・安心の確保の取組を進めてまいります。

2. 大都市・大阪の成長に向けて

府民の安全・安心を確保する財源を生み出すためにも、大阪の成長が必要で、世界的に都市への人口集中が進み、都市間競争が激化する中、大阪は今、大都市として転換期を迎えています。

これまでの都市づくりは、生産を中心に工場を誘致し、多くの労働者を郊外地域に住ませ、通勤電車で揺られて朝晩大移動する、いわば規格大量生産、大量消費に適合することをめざしてきたと言えます。都市計画も効率的な土地利用に向けて用途純化を進めてきました。おかげで大阪は、日本第二の人口を擁する都市となり、鉄道、道路等のインフラ整備やオフィスビル、住宅が大量に供給され都市機能の充実が図られました。

しかし、工場等は日本全国、世界各地に効率化を求めて立地し、国際的な分業が進んでおり、これからの大都市としての成長は、多彩な人が住み、働き、学び、遊び、自由に交流し、その中から新たなものが生み出されるという都市の原点に戻って大都市の環境整備を行っていく必要があります。

大阪は、こうした流れに遅れをとって

いないでしょうか。都心部は相変わらず車で溢れ、人々が安心して歩ける場所、集える場所は少なく、みどりの印象もありません。クリエイティブな人材が集まる大都市とは呼べない状態です。折角、これまで積み重ねてきた豊かなストックがある訳ですから、人の知恵の時代にふさわしい都市に改造していくこと、「人」中心の都市構造に転換していくことが必要です。

3. グランドデザインがめざすもの

大都市・大阪の成長をめざして、大阪都心部を中心にグランドデザイン・大阪府内市町村を中心にグランドデザイン・大阪都市圏を策定して、「人」中心の都市構造への転換をめざしています。

都市再生環状道路など道路インフラの充実により、都心部に流入する自動車交通量は劇的に削減することができます。都心部の南北、東西に走る幹線街路は一部を通行止めにして全面歩行者に開放することができそうです。

また、府県域を超えて流れる淀川、大和川、北摂、生駒、金剛・和泉葛城山系をもっと人々が交流できる場所にできないのではないかと。淀川舟運の復活や広域自転車道の構想も描きました。今後、日本をリードする大都市圏として、大阪を「人

中心の都市構造に転換し、新たな価値を創造する都市づくりを進めていきたいと考えています。

その実現に向けて、グランドデザイン・大阪、グランドデザイン・大阪都市圏では、民間投資を促進するため大阪の将来像を示しました。高度経済成長期までに形成された公共ストックも活用していくこととしました。都心部にある鉄道検車場、大河川の防災船着場、合理化によって余剰となる浄水場など、民間の活用を進めることによって新たな投資が生まれます。漫然と続けられてきた規制も大胆に緩和していくこととしています。普段の規制は、厳格に行うことを大前提に、民間の方々からも様々な提案をいただき、民間投資を促進していきます。

4. 具体的な取組事例

グランドデザイン・大阪の策定から六年、グランドデザイン・大阪都市圏の策定から一年半が経過し、今、数々の特徴ある投資が行われています。代表的な取組を紹介します。

【うめきた二期】

「うめきた二期」は、様々な民間提案を踏まえ、世界の人々を惹きつける比類なき「みどり」を創出し、新たな国際競争力を獲得し世界をリードする「イノ



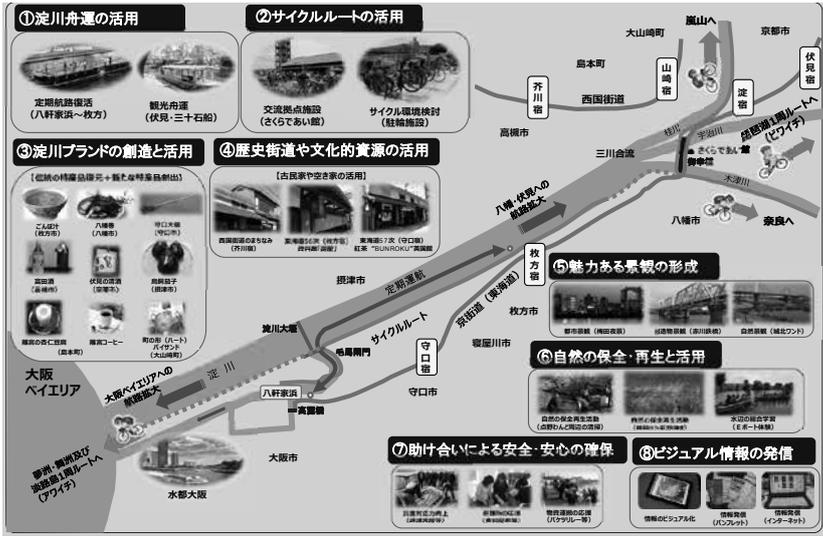
うめきた2期地区全景



御堂筋将来ビジョン

「ベイション」の拠点とする、「みどり」と「イノベーション」の融合拠点をまわりの目標に、官民連携して取り組む

できました。この目標実現のため、都市公園を含めた一体的なまちづくりを行う開発事業者



淀川沿川広域連携型まちづくり戦略

を昨年一二月から募集し、本年七月に、「みどり」と融合した生命力と活力あふれる都市空間をコンセプトとする提案を行った開発事業者が決定したところであり、二〇二四年の先行まちびらきに向けて事業が進められます。

【御堂筋全面みどり化】

「御堂筋」は、長期的に「全面みどり化」に向けて取り組む方針を打ち出すなど、様々な形で議論・検討が行われてきました。

昨年度、完成八〇周年を迎えたことを契機に、「御堂筋将来ビジョン」が策定され、完成一〇〇周年をターゲットとして、車中心から「世界最新モデルとなる、人中心のストリートへ」転換することが打ち出されました。

今年度は、ファーストステップとして、側道歩行者空間化が進められていきます。

【淀川沿川広域連携型まちづくり】

淀川という広域的な空間をどう活かしていくか、沿川の民間まちづくり団体等で構成する「淀川沿川まちづくりプラットフォーム」を設立し、検討を進めてきました。

本年三月には、淀川沿川の地域資源を活かし、その価値を高め、広域的な視点でつなぐことで、魅力あふれる都市空間を創造し、まちづくりを推進することを基本目標とした「淀川沿川広域連携型まちづくり戦略」を策定しました。この戦略に基づき、淀川沿川の将来像を関係者で共有したうえで淀川舟運、サイクルルート、歴史街道や文化的資源の活用、魅力ある景観の形成などについて、各ま

ちづくり団体等が独自の取組や相互連携による事業を進めています。

5・最後に

現在、大阪府で誘致を進めている二〇二五年国際博覧会は、本年一月に開催地が決定する予定です。民間の投資を呼び込み、「人」中心の都市構造への転換を進める絶好の機会です。

また、二〇一九年には、旧都市計画法・市街地建築物法制定から一〇〇年を迎えます。節目の年を迎え、都市計画法や建築基準法が制度疲労を起こしていないか見つめ直し、新たな取組に着手する契機になるでしょう。

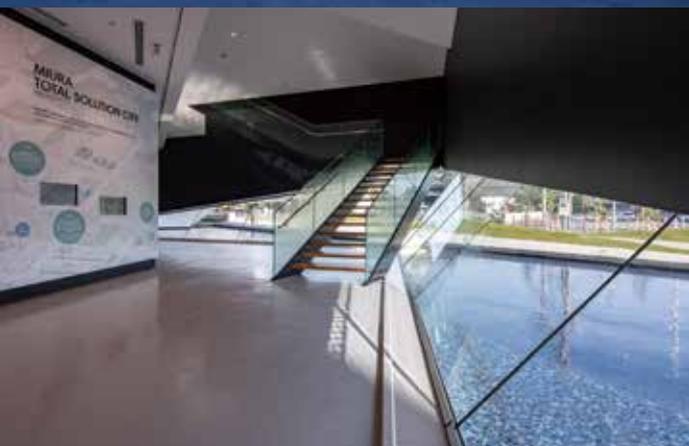
このような機会を捉え、市町村が、住み・働き・学び・遊ぶ人の視点で、まちの魅力を発掘・再発見し、磨き・際立たせるまちづくりを進めていく。大阪府は広域的な観点から個々の市町村の取組をつなぎ、魅力あふれる関西・大阪を実現していきたいと考えています。

そして、なにより重要なのは、民間投資により大阪の都市構造を「人」中心へと大きく転換していくこと。そのために、建築士をはじめ民間の皆さまの知恵を結集していくことが必要です。

今後とも、市町村、経済団体、民間の皆さまとともに、新たな時代の都市づくりを進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

山下 久佳

大阪府住宅まちづくり部長
一九五八年生まれ、一九八四年京都大学大学院工学研究科修了後、大阪府入。同部大都市まちづくり推進室長、都市空間創造室長、技監を経て、二〇一七年四月から現職。



ボイラー国内最大手、三浦工業の本社敷地内に計画したショールーム。ボイラーにとどまらず「水を生かしたトータルソリューション」を印象づけるために、水を介して展示と建築が融合した空間を創出した。分棟化したヴォリュームを水盤に浮かべ、展示経路における水との接点を最大化し、外皮をアルミのシェードで覆うことで、水面の揺らめきが建物全体に反射・増幅する。水と光と空気が結晶化したような新たなショールームが、訪れたゲストに水の魅力と、水を生かした様々なソリューションを伝え、記憶に残る印象的な体験として持ち帰って頂けるように考えた。

所在地：愛媛県松山市
用途：ショールーム
竣工：2018.05
構造規模：S造4階建
敷地面積：46,211㎡
建築面積：1,678㎡
延床面積：5,443㎡
写真：(上)井ノ口洪太
(下)母倉知樹



建物は23.2m*6.6m*4.7mのシンプルな白い箱とし、それを8本の丸柱で地面から持ち上げた。建物を浮遊させることで、隣地から解放されたすばらしい見晴らしを獲得し、かつプライバシーの確保にも貢献している。1階はピロティの浮遊感を損なわないよう、ガラス張りの玄関と収納のみとした。周囲にめぐらせた水盤と植栽は、クライアントが収集されている美術品とが繋がった、開放的なギャラリー空間として訪れる人を楽しませてくれる。2階は眺望が広がる東面のみ大きなガラス建具とし、それ以外は極力閉じることで、開放的でプライベートな住まいを実現させている。

所在地：兵庫県芦屋市
用途：専用住宅
竣工：2017.10
構造設計：玉木建築設計事務所
構造規模：鉄骨造2階建
敷地面積：643.40㎡
建築面積：153.14㎡
延床面積：194.60㎡
写真：松村芳治



積極的に光・風を採り入れつつ、周辺とのプライバシーに配慮しながら、四季を感じ、豊かな時間を過ごせる住まいとしました。特に家族の団樂の場として敷地の中心にリビングと連続する「コミュニティーガーデン」を設け、夜には、2Fのシアタールームからこの中庭を通して、映画鑑賞が出来るという趣向は、映画好きのご主人には、特に好評で、楽しい空間となりました。また、奥様のこだわりの家事動線、中庭のグリーン、趣味の部屋や健康に配慮した自然素材の内装など、家族が健康で生き生きと暮らせる住まいづくりへの「思い」が一杯詰まった温かな住宅となりました。
 (HTA デザイン事務所 高原浩之・浅井幸子)

所在地：大阪府堺市
 用途：専用住宅
 竣工：2018.05
 構造規模：木造2階建
 敷地面積：297.53㎡
 建築面積：177.73㎡
 延床面積：278.15㎡
 写真：笠原恭太郎



この住宅は、岸和田市の東部に建っている。母親と娘の親子が、築30年程経った入母屋平屋建の和風住宅を購入した。その住宅を、光や風や緑など、自然を身近に感じられる和の雰囲気を持った、現代生活に気持ち良く暮らせる終の住処としてのリノベーションである。購入された住宅は、南側道路沿いの主庭に木が1本も無く、防草シートが敷かれ、灯籠が一基ボツと置かれていた。予算上、外観は改修せず、外部環境に配慮しながら、主庭を再現して、内部を機能的に全面改修を考えた。天井を高くしたLDKの一室空間と、障子で仕切られた和室が、縁側を介して、主庭と一体となる。内部の漆喰や、葦簀の自然素材と相まった空間の中で、親子が豊かな時間を過ごし、季節の移ろいを感じながら暮らせる住まいを計画した。

構造監理：天野一級建築
構造設計事務所
所在地：大阪府岸和田市
用途：専用住宅
竣工：2018.06
構造規模：木造(在来工法)
地上2階
敷地面積：380.00㎡
建築面積：155.00㎡
延床面積：172.19㎡
写真：福澤昭嘉
大西憲司(★)

★

第11回 建築人賞

主催：公益社団法人 大阪府建築士会

第11回建築人賞の審査委員長は、乾 久美子氏に決定いたしました。

公益社団法人大阪府建築士会では
本誌「建築人」の Gallery に掲載された建築作品を対象に
社会性、芸術性、時代性を考慮して、顕彰、公表することにより
建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的として
建築人賞を実施しています。

■ 審査委員長 乾 久美子



1969 大阪府生まれ
1992 東京藝術大学美術学部建築科卒業
1996 イェール大学大学院建築学部修了
1996～2000 青木淳建築計画事務所勤務
2000 乾久美子建築設計事務所設立
2000～2001 東京藝術大学美術学部建築科常勤助手
2011～2016 東京藝術大学美術学部建築科准教授
2016～ 横浜国立大学大学院Y-GSA教授

■ 表彰（設計者に対して）

建築人賞（賞状と記念盾）

建築人賞奨励賞（賞状）

※建築主・施工者には賞状授与

■ 第11回 対象作品

「建築人」2018年1月号から2018年12月号まで
Gallery に掲載された建築作品

※建築種別、建築地を問わない。但し、竣工検査済証を受けたもの

■ 審査方法（未定）

■ 受賞発表

建築人 2019年7月号誌面（予定）

■ 問い合わせ

公益社団法人大阪府建築士会「建築人賞」係
担当 / 母倉 政美
TEL 06-6947-1961 FAX 06-6943-7103



建築人賞 記念盾 「未来へ！」

ガラスアーティスト 三浦啓子作

『建築人』 Gallery 掲載作品 募集中 2018

会報誌「建築人」では、Gallery に掲載する作品を
募集しています。

【掲載料】

カラー 2ページ 20万円

カラー 1ページ 10万円

詳しくは、公益社団法人大阪府建築士会「建築人」
Gallery 建築作品掲載係まで。

今年二〇一八年六月三〇日、名古屋の繁華街の栄に位置する老舗百貨店の丸栄が閉店した。業績の低迷と建物の老朽化などの理由から、周囲を含めた再開発のため、近く解体工事が始まるという。その最後の姿を今一度見ておこうと、六月中旬の休日に立ち寄った。名古屋駅から地下鉄に乗って五分、栄で降りて徒歩数分で現地に着く。開店前の時間帯だったが、通い慣れた馴染み客なのだろうか、大勢の人が正面入口に集まり、対面の歩道では外観を撮影する人の姿も見かけた。長く親しまれて来た名古屋を代表する名百貨店だったことがわかる。

前身の小間物商「十一屋」が江戸時代初めの一九一五年創業なので、四〇三年の歴史を持つ。今に続く丸栄は、この「十一屋」と栄に進出した百貨店「三星」が太平洋戦争下の一九四三年に戦時統合により設立され、社名には「名古屋栄の地で丸く栄える」の意味が込められていたという。だが、村野藤吾の設計によって現在の姿となる前の戦前には、当初、清水組（現・清水建設）によって、地下二階、地上八階で計画されたものの、戦争遂行のための資材統制によって建設工事が地上二階まで進んだ段階で中止され、そのまま戦後を迎える。そして、村野は、建設された既存部への増築という形で設計を依頼され、一九五三年に初めて八階建ての百貨店として完成させたのだ。その後、一九五六年に西側に新築で増築されて完成形になる。おそらく村野が起用された背景には、同じく戦争で中断された既存部の増築として建設された東京日本橋の高島屋東京店増築（一九五二年）を含め、そごう大阪本店（一九三三年）や大丸神戸店（一九三六年）など、すでに戦前からの百貨店の実績があったからなのだろう。村

野も精力を注いで取り組んだに違いない。こうして増築を重ね、今の外観になってからすでに六二年の月日が経つ。それでも、今回再訪してみても改めて感心させられたのは、端正な印象が色あせることなく健在だったことだ。特に、広小路通りに面する北側の正面ファサードは、一階足元廻りの深緑色の大理石張りの独立柱と、上部の縦格子状のシャープな薄紫色のモザイクタイル張りの外壁面との対比が見事なコントラストを見せ、圧倒的な迫力を醸し出していた。

外観に心地よい緊張感を与えている。今こそ大型建築が周囲に建ち並んでしまったが、空襲で焦土と化した名古屋の戦後復興に立ち向かう人々にとって、さぞかし誇らしく頼もしい街角の建築だったのだろう。この丸栄百貨店によって、村野は、一九五三年度の日本建築学会作品賞を初めて受賞する。ちなみに、他の受賞作品は、丹下健三の愛媛県民館と山田守の大阪厚生年金病院だが、いずれも現存しない。当時の作品賞の関連資料を振り返る時、興味深いの

記憶の建築

松隈 洋

丸栄百貨店 1953・56年
戦後を見守った老舗百貨店



北西側から見る建物全景。西外壁面にモザイクタイル装飾が施されている。



1階エレベーターホール。扉に東郷青児の画が使われている。

また、同じ縦格子状のデザインが回り込む東側立面では塔屋と連続させつつ、一部をセツトバックさせることによって、外観に小気味よいアクセントが付加されている。さらに、反対側の西側の幅の狭い外壁では、西日を避けるために窓が必要ないことを逆手にとって、さまざまな色のモザイクタイルを用いた斬新な装飾が施されて、独特の風合いで建物全体を引き締めている。そして、正面ファサードからこの西側へと切り替わるコーナー部の雁行する壁面の処理も

は、一九四九年に創設された作品賞をめぐる村野の建築の微妙な立ち位置である。審査員の大半は、作品賞の創設の中心にいた東京大学教授の岸田日出刀をはじめ、堀口捨己や丹下健三、坂倉準三や前川國男など、合理主義と機能主義を信奉する東京の建築家たちが占めていた。そのため、戦前から活躍を続けていた村野の評価が立ち遅れた現実が見えてくる。例えば、この丸栄の前年の一九五二年に竣工した高島屋東京店増築は入賞を果たせず、翌年の一九五四年に

竣工した世界平和記念聖堂も評価が遅れ、一九五五年の受賞に持ち越される。その間、今井兼次の「村野藤吾さんの横顔」（『建築雑誌』一九五五年六月号）や、ペンネームの岩田知夫（川添登）と市田鱒（菊竹清訓）による「村野藤吾論」（『新建築』一九五五年十月号）など、村野に関する論考が相継いで発表された。前者では、世界平和記念聖堂を、「日本の至宝にして記念性建築」として「現代建築の里票」と評価し、後者では、村野を、「合理主義思想に疑惑を感じ」、「より特殊なものから、アプローチすることによって、本質的なものに肉薄しようとした」建築家として評価している。こうした構図を知る時、丸栄の作品賞受賞の際に村野が記した次の言葉の意味が初めて理解できるものとなる。

「あまり合理一偏到では、建物は、栄養不良の秀才の様に血の気のない骸骨になって親しみにくくもなり、人間味もアソビも取り去られて、市場のような百貨店になるおそれがある。」（『建築雑誌』一九五四年七月号）

ここには、大衆の世界にもまれながらも、人の心に伝わる確かな質を持った建築を目指そうとした村野の建築家としての矜持が読み取れるのではないだろうか。時を経て共に国の重要文化財となり、現在修復工事が進む高島屋東京店増築と世界平和記念聖堂、そして、残念ながら取り壊しを待つ丸栄百貨店の姿から、村野が建築に託そうとしたものを今一度噛みしめておきたい。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授、博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

淡路島という関西では身近な観光地というイメージがあります。今回は淡路島で建築士事務所を開設し、地方での課題に取り組みながら活動の幅を広げているヒラマツグミ一級建築士事務所・平松克啓さんによるその活動を紹介していただきました。

淡路島で建築を考える

平松 克啓 (ひらまつ かつひろ)

ヒラマツグミ一級建築士事務所代表

1980年兵庫県淡路島生まれ、2003年大阪工業大学工学部建築学科卒業、間工作舎勤務を経て2009年ヒラマツグミ一級建築士事務所設立。設計業務の傍ら、古民家再生プロジェクト「recominca」、「淡路島の家プロジェクト」「HIRAMATSUGUMI/architects/studio/café/gallery」の運営を行う。

ヒラマツグミ一級建築士事務所の活動として、いわゆる一般的な設計業務の他に、「古民家再生プロジェクト」「recominca」、「淡路島の家プロジェクト」、「HIRAMATSUGUMI」でのカフェ、ギャラリーなどの運営を手掛けている。以前には、「淡路はたらくカタチ研究島」など、公共との連携プロジェクトにも関わっていた。二〇〇九年、故郷である兵庫県淡路島で設計事務所をはじめるところとなるのだが、その当時は現在のようにな岐にわたる活動など夢にも思っていなかった。

Recominca (リコミンカ)

淡路島には数多くの伝統的な木造住宅である古民家が残る。その多くは、農家住宅であり、淡路の木材や瓦を用いて建てられ、家畜を飼育し、田畑を耕すなど、土地と一体となった生活が営まれていた。このような伝統的な民家は、淡路島の風景を形成してきた重要な要素のひとつと言える。ところが、人口は減り続け、世帯数も二〇〇〇年をピークに減り続けていく。古民家から徐々に生活がなくなりつつあり、その土地と一体となっていた暮らしがなくなること、古民家だけではなくその周辺の土地の風景が変わっていく。人と自然が一体となった豊かな暮らしがなくなり、圧倒的な速さで自然に戻っていく。

建築家のようなものを目指し、意気揚々と地方で設計事務所を立ち上げた若造にいさなり直接、身近な喫緊の課題が突きつけられ、それに対応していくことになる。recomincaはそういう事情があり動き出した。現在でも細々とではありながら、地元不動産屋さんや協力しな

がら淡路島の古民家の活用、再生方法を探っている。

淡路島の家プロジェクト

「最近の設計士はどっちが柱の上か下かわからない。柱が上下逆になっているものがよくあるんや。なにも知らないのが先生、先生言われるんだから、困ったもんだ」

ある材木屋さんから言われた言葉である。先人たちが築き上げてくれたよってきた流通の仕組みや加工システムのおかげで、今の僕たちはそんなことを知らなくても設計ができてしまえる状況にある。それは、木材だけでなくおおよそほとんどの材料や商品がそういう風に運ばれて組み立てられ家ができていく。果たしてそれで本当に建築についてわかっていえるのだろうか？ わかったつもりでも何と知らないのではないだろうか？ ここには、文字や数字では表せない、とても重要な何かを見落としてしまっているような気がしてならない。

淡路島の家プロジェクトでは、木を伐るところから始めた。いや、伐れる木を探すところ木を伐る人を探すところから始めた。淡路島には林業がない。戦後、政府の政策で日本中に杉・檜が大量に植林された。もれなく淡路島でも同様に一部の山で広大な植林がなされているので、山には木は大量にある。年配の大山さんに話を聞くと、昔の淡路島の人たちは、自分たちの家を建てるために裏山に植林をしている家も少なくなかったという。なるほど、よく見ればそんなに多くはないがあちらこちらに杉・檜はある。木についてだけでも知らないことが無数にある。伐る時期、乾燥方法、加工方法

などなど。実際に自分たちでやりだすとわからないことが山のようにあることに気づく。他の素材や技術に関しても同じである。もう少し我々は自分が立っている足元を見直し、そこにあるべき建築や風景を描かなくてはいけないのではないだろうか。それには、もっと建築と向き合い、その地域の環境や歴史、文化を学ばねばならないのではないだろうか。建築家として、都市的な社会が求めるモノばかりを作り続けるのではなく、自然の恩恵を受けて生きる人として。

そのためには、現代のくらしにあった「淡路島の家」を考える必要があった。

「どこからでも便利ない材料をもって来るわけにはいかないの、自分たちの土地で得やすい材料を主として作らなければならぬ。また、土地によって気候風土が違うから、雨の多いところでは、それに備えるように、寒いところでは、寒さを防げるように、それぞれ自分たちで工夫して作らなければならない。」

—日本の民家 今和次郎著

民家は、その地域で長い年月をかけて自然の力と対峙し、寄り添いながら暮らしてきたカタチがそこに現れている。これ以上の教科書はないはずである。Recomincaでの活動を経て淡路島の古民家は数多く見てきている。それを見る目がこちらにあるかどうか試されている。淡路島の家とは一体どんなものなんだろう。なるべくそのへんにある素材で、なるべくそのへんにいる人たちと、淡路島の気候に合った自然に寄り添う家づくりを目指したい。今すぐにその答えがあるわけではなくこれから試行錯誤を重ね、実践し、検証を重ね、少しづつそれらし



淡路島の家プロジェクト

そこらへんの素材で、
きちんと建てる。



淡路島の古民家

い形を見いだせたらと思っている。そうすることによって、今まで見えてこなかった、見落としていたものが少しでもわかってくるんだと思う。二〇一六年一月三日。多くの人たちの協力のもとようやく一本目の淡路島檜の伐採ができた。淡路島の家の最初の一步である。

HIRAMATSUGUMIという場所

普通に生活していると、毎日いくつもの建物に接している。ただ、ほとんどの人はその建物がどういう意図でどういう風に作られ、だれが作ったのかなんて考えない。いわゆる建築について考える人はまずいない。特に淡路島のような田舎ではそれが顕著であると感じている。少しでも建築に興味をもってもらい、私たちの身の回りの空間を意識し生活してもらえたらと思う。そういうところから



HIRAMATSUGUMI

HIRAMATSUGUMIの運営を始めた。カフェ、ギャラリー、スタジオ、そして設計事務所からなる場所である。建築にふれあえるきっかけであり、我々が提案する居心地のいい空間を実際体感できる場所を目指している。居心地よくこの場所を過ごしてもらうために食はとも大切な要素で、また建築と根源的部分で切っても切り離せない部分でもある。スタジオには、リコミンカの活動やリノベーションでの古民家の解体や改装する際に出る建具や古材をストック、淡路島の木や古瓦など流通に乗らないような素材を集めている。実際設計にも取り込み、試行錯誤できる工房のような場所にしていきたい。ギャラリーでは我々が設計にとり入れている、照明、家具、素材を実際に手に取ってみてもらい、また、我々も安易にカタログだけで様々なものを選びすぎないように、実際手に取って検



イベントの様子

討する場にもなっている。

独立してから九年間自分なりに試行錯誤し目の前の課題を解決、人に求められるがままに動いてきて今のカタチにたどり着いた。もちろんまだまだ完成形ではなく、建築とはなにか試行錯誤を重ねながら、建築の射程に限界を作らず自分なりの建築をここ淡路島の地で作り上げていきたいと思う。

建築物耐震評価業務のご案内

本会事務局

本会では、「建築物耐震評価委員会」を設置し、申込者の行った耐震診断や改修計画の妥当性を判定する評価業務を行っており、(一財)日本建築防災協会の「全国耐震ネットワーク委員会」に登録しております。

建築物耐震評価は、ぜひ本会にお申込下さい。

【対象建築物】

建築物の所在地(全国)、公共・民間の別、規模、構造種別は問いません。

※本会会員 評価手数料一〇%割引

安価な評価手数料の設定をしており、本会会員は、一〇%割引します。

※スピーディーな審査

可能な限り短期間で評価書を発行できるよう努めております。

【実績事例】

・某ホテル一〇階建 不整形 SRC三万八千㎡
耐震診断(三次診断)・改修計画評価

・申込から委員会評価修了まで約六〇日間

【学識委員】(敬称略)

大野義照 (大阪大学名誉教授)
坂 壽二 (大阪市立大学名誉教授)
阿波野昌幸 (近畿大学教授)
土井 正 (元大阪市立大学大学院准教授)

詳細は本会ホームページをご覧ください。

【問合せ・申込】

公益社団法人 大阪府建築士会事務局

建築相談室から二十九

現地相談 その三

文 橋本頼幸

前回・前々回に続いて本会で行っている現地相談をご紹介します。

瑕疵担保保険の延長はできないか?

築十年直前、木造三階建て住宅、瑕疵担保保険の延長はできるのか?という相談でした。よく聞くと、内外壁に亀裂が多いので、心配だとのこと。施工業者に相談するも問題ないとのことだが、かなり心配である。

外壁の異常な亀裂

現地相談に行き建物を確認する。内壁の亀裂はボードのジョイントに沿った直線上のものがほとんどでそれほど大きな問題があるように思われなかった。一方外壁のサイディングは目地以外のところで大きく裂けている部分、突きつけられてはらんでいる部分などが見られ、割れ方が通常の力で発生したような現象ではないように見られた。建築確認申請書類(構造計算書)を現地にて簡易に確認したところ、一階にある天井裏の収納の積載荷重が考慮されていないことや耐力壁の配置などに問題があることが確認された。

その後の対応

瑕疵保険を延長したいとの相談から入ったことからわかるように、築後十年満了になる直前(二ヶ月前)であったことから、弁護士につき瑕疵担保の申し入れを行うこととして、弁護士にバトンタッチしています。現地相談は完璧ではない

言うまでもないことですが、現地相談でもれなく問題点が明らかになることは期待できません。また、相談者の気になるところを確認することが中心になる上に、仕上がった建物に対して

見ることが出来る部分は限られます。初回の現地確認では目視が中心であり調査道具も限られています。また、本格的な調査をする目的でもありません。そのような限られた中で、現地相談の担当者は最大限の成果を出すために常に努力していることが相談記録から伺えます。

たまたまうまく問題にたどり着き、次のステップに進むことができる場合もありますが、先月紹介したような次に進んだかわからない相談も少なくありません。一方で、問題が小さく「問題ないですよ」として終えた相談にも、別の問題につながる場合があります。

現地相談の範囲

現地相談から一年程度経過して本会に「当時の現地相談に不満がある」と寄せられたことがあります。別の機関の調査結果と異なった判断がされたり、新たな問題(相談者の主観的な問題で有ることが多い)が見つかったりすると「前回の調査に不備があったのではないか」と相談者は考えます。前述の通り、現地相談は目視中心であり建物全てを調査・検査するわけではありません。現地相談を実施している側から見ると、とても批判やクレームに当たらないことであることは明らかです。しかし、相談者からすると自分の建物の不備に必死になればなるほど盲目的になってしまい、憂さ晴らしとも思えるような反応を示すことも理解できます。

現地相談の難しさ

現地相談の難しさは、相談者のほとんどが一般消費者であり、建築を専門としている人ではないことです。つまり、ほとんどの相談者は、自分の味方になってくれる専門家が周りにいなく不安が募っている人が多く、そういった相談者いかに満足できる内容を提供できるか、相談員皆が悩みながらも全力で取り組んでいます。

編集後記

牧野隆義

東京オリンピック開催まで二年を切りまして。早いもので横文彦先生にインタビューさせて頂いてから二年以上経ちます。その際に新国立競技場の問題もお話いただき、その足で現地も確認しました。広大な敷地と周辺には心地よい森と広い空がありましたが、急ピッチで進められた現地には本当に巨大な施設が完成しつつあります。未だかつてこれだけの数のクレーンが立ち並んでいるのを見た経験がありませんでした。しかし無理がたたり、尊い人命が失われたことを忘れてはなりません。

また、今年には災害も頻発に発生しています。四月には最大震度五強の島根県西部地震、六月には最大震度六弱の大阪府北部地震、そして七月には台風七号と梅雨前線等による集中豪雨や、七月の記録的な酷暑は現在も続いています。

これらを踏まえ安心・安全を確保し、人口が減り続ける日本の設計を本当に考えなくてはいけない気がします。厳しい時にこそ考え抜く力が必要で試されます。私たちは、小さいこの紙面を通じて出来る事を考えていきたいと思っています。

建築人 9 2018

監修	公益社団法人大阪府建築士会 建築情報部門
編集	建築情報部門『建築人』編集部
部門長	飯田英二
委員長	牧野隆義
編集人代表	荒木公樹
編集人	河合哲夫 北 聖志 曾我部千鶴美 橋本頼幸 丸子勇人 茂籠一之 若江直生 母倉政美
事務局	山本茂樹
印刷	中和印刷紙器株式会社

快適で安全な社会ストックの
形成に貢献します！



イズミシステム設計は環境 × 防災 × IT を柱に
お客様を多面的にサポートします。



省エネルギー計算

年間 2,000 件以上の信頼と実績。正確性の高い届出書を全国の皆様にお届けします。

※LEED® is a registered trademark of the U.S. Green Building Council.



環境計画書

CASBEE® 自治体版、大阪府建築物環境計画書等の届出書作成をワンストップでサポートします。



CASBEE® 認証 ※

大規模施設、高ランク目標など、CASBEE®認証取得のご計画を初期段階からサポートします。



LEED® 認証 ※

LEED AP コンサルタントによる LEED 認証取得の支援を行っています。



設計住宅性能評価

設計性能評価の申請に必要な書類作成および評価機関への申請サポートを行います。



避難安全検証

設計・施工・運用のどの段階からでも検証し、自由度の高い設計をサポートします。



防災計画書

ワンランク上の安全性を確保するために、計画段階からサポートします。

※は東京オフィスで承ります。



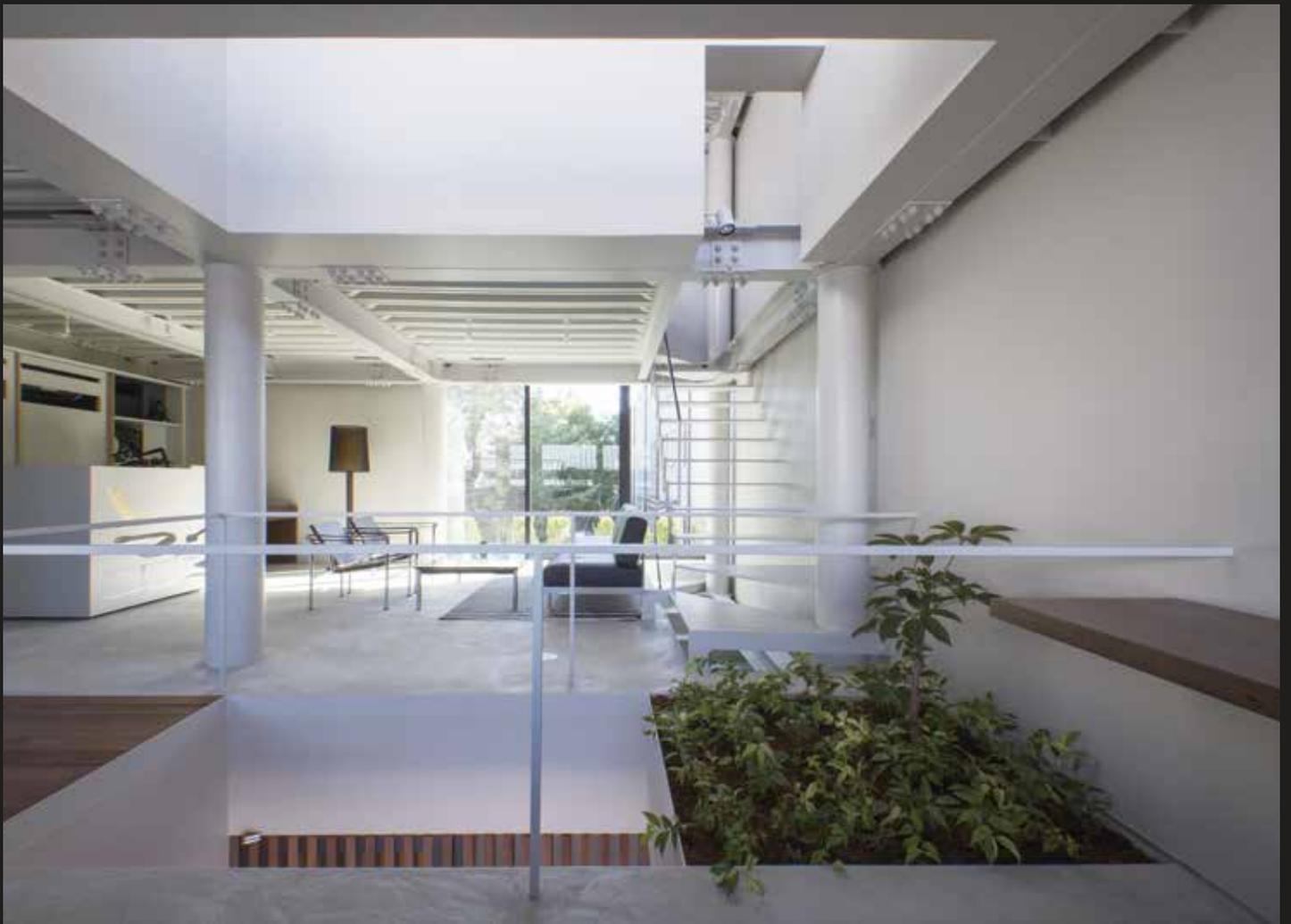
Izumi System Planning

大阪・東京・高崎

<http://izumi-system.co.jp>

Tel : 06-4708-6580

E-mail: ad_osaka@izumi-system.co.jp



Frame マニエラ建築設計事務所

鉄骨とシャープさを求めた施主のご要望から、ソリッドな形状・白い「フレーム」がマッシブな性状を表しつつ周辺環境に溶け込むように佇む、鉄骨造3階建てとしている。

1階では「ピロティ」の浮遊感が鉄骨の重量を和らげ、ファサードに組んだフレームはブリーズソレイユとして日射を遮りながら、時間や季節によって異なる豊かな影を室内に落とし空間に彩りを添えている。

洗練されたシンプルな生活を体現するこの真白な「フレーム」は、ご夫婦の過去への追憶と新しい記憶を育む場として、落ち着いた街並みの中で風景を切り取るように佇みながら、経年による多様な表情・楽しい変化を加え、この街と共存していくことになるだろう。

撮影：喜多 章 第10回建築人賞受賞作品



■プロフィール

大江一夫
1948年 神戸市生まれ
1980年 マニエラ建築設計事務所設立
1996年 大阪建築コンクール大阪府知事賞受賞
2005年 日本建築家協会優秀建築選
2009年 中国建築家大賞優秀賞
2010年 建築人賞
2011年 サステナブル住宅賞受賞
2012年 日本建築学会作品選奨

■建物データ

設計：株式会社マニエラ
建築設計事務所
施工：三幸建設株式会社
所在地：兵庫県西宮市
用途：専用住宅
竣工：2016年7月
構造規模：鉄骨造3階建
敷地面積：213.37㎡
建築面積：70.29㎡
延床面積：130.68㎡

他 多数

